



◎長崎暮らし移住促進について

9月議会が10/6に閉会し、翌日から長崎くんちで銅座町の南蛮船で関わらせて頂き、翌10日から選挙、選挙が終わり翌21日から決算審査委員会（11/2閉会）と特に忙しくしていました。

決算審査は実質的な質疑を終えましたが、企画振興部の審査の中で28年度の移住促進事業の成果について質疑がありました。昨年度に県と市町で協働運営する「ながさき移住サポートセンター」の設置もあり、窓口を介した移住者は454人（27年度213人）、また移住希望相談者の相談件数は4,187件（同1,965件）と大幅増となっており、移住検討から地域の定着まで途切れのない一貫した施策を展開し一層の促進を図りたい旨の答弁がありました。全国どこの自治体も力を入れているなか頑張り時です。

またそれに関連し「全国初のキャンピングカーによるラクラク移住先探し」の成果についても質疑がなされました。



「ラクラク移住先探し」で貸し出しているキャンピングカー

実は私は正直、この事業予算が上程された時「おいおい大丈夫か？移住先探しが目的ではなく単に安く借りられるぐらいの気持ちでしか利用はないのではないかと」思っていました（貸出の基本料金は1日8千円ですが、移住先探しのメニューの参加数に応じて最安3千円に）。

しかしながら事業開始からすぐに各種マスコミで「面白い」と取り上げられ、そのような宣伝効果もあってか、この1年半で**45組100人**に貸し出し、結果そのうち**7組17人**が移住したとの実績がでています。

他がやらないことで成功した事例です。

もちろんこの数字の背景には移住後の就労についても市町と連携し、自身で起業する方は別にして、企業等に就労したい方には「3winながさき」と題したプロジェクトのもと優秀な人材を採用したい企業と、これまでの経験やスキルを活かしたい移住希望者を結びつける仕組みとその取り組みへの努力があつてのことです。

上記は成功事例ですが、「女性をターゲットにした移住プロモーション」を安易に県外大手広告代理店に発注し、実績については疑問をもつような事業もあります。試行錯誤でしょうが、移住対象者の年齢層毎の戦略に知恵を出す、また実際に高校・大学を卒業し県外流出した若者に対して情報提供できるような住所追跡等の取り組みも必要だと思います。

まだ緒に就いたばかり、いい知恵をお寄せくださいませ。

★詳しくは長崎移住ナビ <http://nagasaki-iju.jp/support/camper>